



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

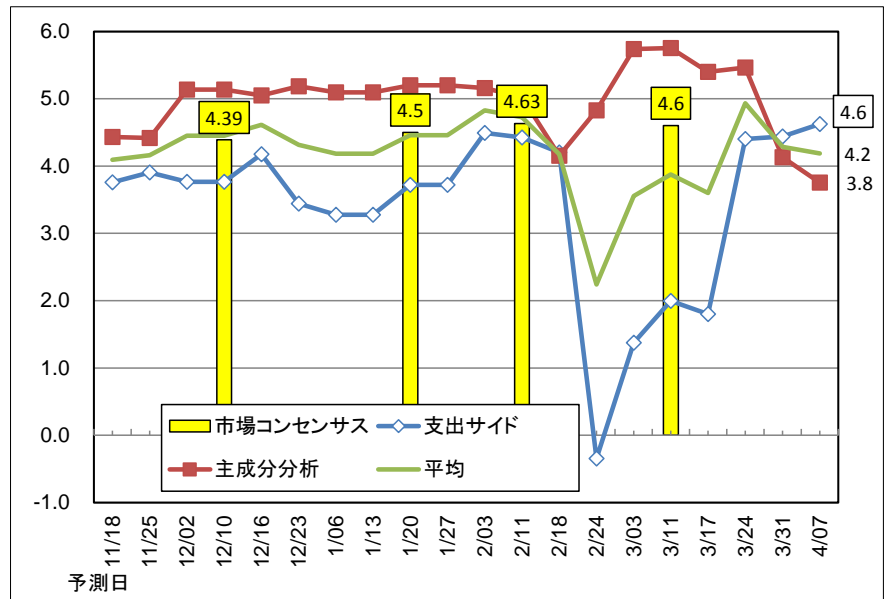
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年4月7日)

## ポイント

▶今回予測で、3月の財政資金対民間収支、2月の鉱工業指数、毎月勤労統計、建築着工統計及び1月の建設工事費デフレータが更新された。  
▶2月の建設工事費予定額は4ヵ月ぶりの前月比マイナス。一方、2月の鉱工業生産指数は大雪が操業に影響し3ヵ月ぶりのマイナスだが、同月の資本財出荷指数は2ヵ月連続のプラス。2月の最終需要財在庫指数は2ヵ月ぶりの前月比マイナス。  
▶結果、1-3月期の実質民間住宅の予測値は先週から下方修正されたが、実質民間企業設備、実質民間在庫品増加及び実質公的在庫品増加の予測値は上方修正された。  
▶今週(4/7)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.6%と予測。先週の予測(+4.4%)から小幅の上方修正。成長の中身を見れば、純輸出の縮小が前期から小幅にとどまり、内需が駆け込み需要の影響で大きく拡大する。

CQM予測の動態：実質GDP成長率  
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



### <大雪が操業に影響し2月の鉱工業生産指数は低下するも、資本財出荷指数は好調を維持>

今回更新されたデータは、3月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、マネタリーベース、2月の鉱工業指数、毎月勤労統計、建築着工統計及び1月の建設工事費デフレータである。加えて、日銀短観3月調査が発表された。これらのデータは民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増加、公的在庫品増加、デフレータ(民間住宅、公的固定資本形成)及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

2月の建設工事費予定額(居住専用)は前月比-15.1%大幅減少し、4ヵ月ぶりのマイナス。2月実績は事前予測を大幅下回ったため、1-3月期の実質民間住宅の予測値は先週から下方修正。2月の鉱工業生産指数は前月比-2.3%低下した。大雪が操業に影響し3ヵ月ぶりのマイナスだが、1-2月平均は10-12月平均より+3.2%高い水準である。また2月の資本財出荷指数は前月比+0.2%上昇した。2ヵ月連続のプラス。実績は事前予測を上回った結果、1-3月期の実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。2月の最終需要財在庫指数は前月比-2.3%低下した。2ヵ月ぶりのマイナス。実績は事前予測を上回ったため、1-3月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から上方修正された。

今週(4/7)の支出サイドモデルは、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+1.1%、同年率+4.6%と予測。今週は実質民間住宅の予測値は下方修正されたが、実質民間企業設備、実質民間在庫品増加及び実質公的在庫品増加の予測値が上方修正された。結果、先週の予測(+4.4%)から小幅の上方修正となっている。1-3月期は純輸出(前期比-0.3%)の縮小が小幅にとどまり、内需が駆け込み需要の影響で大きく拡大(前期比+1.5%)する。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690